

THIS IS A NEW RULE!!

YOKOHAMA 24:00, RIDE ON TIME!

## アップグレードされた“派生系プリウス”の胎動

# 知性を忘れず、たくましく、端整に。 知的肉食系で行こう！

11月下旬。金曜日。11…30 P.M。  
我々は横浜の港町を徘徊していた。  
まるで仲間達が集まることを予想  
するかのごとく、10時少し前には  
大黒パーキングの入り口で発煙筒  
が炊かれていた。そして10時ジャス  
ト、警官隊によりシャットアウト。  
パーキングからは出ることは出来て  
も、一切のクルマの入場が拒否され  
た。しかたなく次のミーティングポ  
イントを探すため、それぞれが横  
浜の夜をさまよって走る。そして深  
夜12時。後からソロソロと付いてき  
てはスピードカーから

小言をまき散らすパ  
トカーとカブの白バ  
イを引き連れ、やっ  
と見つけたコンビニ  
の駐車場。様々な  
車種のストリート系  
カスタムが、ひしめ  
く場所に乗り入れた。

その中で見かけたプリウスは、た  
しか4台だったと思う。20系と30系  
のコンビネーション。いずれも車高を  
ガッツリと落とし、それぞれにオー  
ナーのパーソナリティを主張するマシ  
ンたち。共通して言えることは、妥  
協なくイジっていること。このクルマ  
がエゴカーだとか、地球に優しいと  
かの理屈は横に置いて、純粹に  
プリウスのスタイリングに惚れ込み、  
よりカッコよく転がしたいと思うオー  
ナーの気持ちがかがえる。「カスタ  
ム・ベースとしてのプリウス」という  
捉え方。ストリートに真の存在意義  
を求めるプリウス・ユーザーの姿だ。  
こうしたシーンの、リアルなノリを

各出版社がシノギを競い合う激戦の“カスタム系  
プリウス”雑誌。そんな状況下で刊行した本誌「プ  
リウス・アップグレードマニュアル」は、他社の内  
容とどう違うのか？ そのヒミツはここにある。

Photo & Text / Takenao HAYASHI (林 剛直)  
Special Thanks / SOUND CONNECTION (046-263-5945)  
[www.soundconnection.co.jp](http://www.soundconnection.co.jp)



サウンドコネクションの代表、中村氏と愛車の30。すぐ右で話してい  
るのはチェックショップの大塚氏。共にストリート系の第一人者だ。



兵庫から参加のサイレンズ30は  
純正ホイールに履き替えながらもベ  
タ落ちの車高がシュールでクール。  
アメリカのストリートを思わせる。



小さな駐車スペースにピシッリと  
寄り添う一級品のマシンたち。  
気の合う仲間が集まれば、話  
は深夜になっても終わらない。

一冊にまとめた。そういう思いで製  
作したのが本誌である。  
「ご存じのとおり、これまでに数  
多くのカスタム系プリウス誌が書店  
に並んできた。しかし我々は独自の視  
点でストリートに生きるプリウスを捉  
え、差別化を図りたいと考えたのだ。  
独自の視点とは、LUXG、その前  
身であるストリートAカーズから10年  
以上に渡って培ってきた、リアルを見  
極める感性である。したがって本誌で  
はカメランからデザイナー、編集者  
にいたるほとんどを、同メンバーでま

とめた。いずれも日米のカスタムシ  
ーン、ストリートシーンを現役で見つめ  
ている、と自負する者たちである。  
そして日米の最新モデルや注目モデ  
ルを厳選ピックアップ。今考え得る  
最もカッコいいストリート系を出来う  
る限り網羅したつもりだ。  
30系の登場により、プリウスのカ  
スタムはさらに加速度を増すだろ  
う。現在ユーザーの方も、これから  
の方も、「自分流」を見つけるのは  
難しくなる。そんな時本誌が少し  
でも役立てば幸いだ。